

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471901494
法人名	有限会社 トウインクル・ライフ
事業所名	グループホーム・美咲の家
訪問調査日	平成20年9月25日
評価確定日	平成20年10月21日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	第1471901494号
法人名	有限会社 トウインクル・ライフ
事業所名	グループホーム 美咲の家
所在地	横須賀市津久井2-21-22 (電話) 046-847-0085

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 23日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6人	
職員数	9人	常勤 4人	非常勤 5人	常勤換算 4.1人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2 階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	75,000 円	
敷 金	有 300,000 円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 250,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (8月23日 現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村内科クリニック、横須賀市立市民病院、田澤歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は京浜急行線津久井浜駅から徒歩約5分の住宅街の静かな環境にあります。平成14年8月に開所し、民家改修型の少人数の家庭的なグループホームです。平成19年4月に医療連携体制加算の指定を受け、協力医療機関の内科医と看護師、職員が連携し、医療サービスを受けることができます。また、急変時や重度化した場合、ターミナルケアを行い、安心して家庭的な暖かい思いやりのある看取りの介護にも努めています。職員は利用者の立場に立った気配り・目配りのサービスに努め、利用者の日々の生活の縁の下の力持ちの役割を果たしています。利用者は誕生日会にはケーキを作ってお祝いし、近くの園児と交流をもち、冬至には柚子湯に入る、お彼岸にはおはぎを作る、十五夜等々、極力日本の行事を取り入れて暮らしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価は平成19年9月に受審し、改善課題は特にありませんでした。今後とも取り組みを期待したい点に、運営推進会議のメンバーに地域の方々を加えることが望ましいという事項についても、自治会の代表者や民生委員を加え、地域の方の理解と支援を得る会議となっています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義やねらいを正しく理解し、職員に評価の目的を説明しています。自己評価は用紙を職員に配布し、記入後話し合い、意見を盛り込み、管理者がまとめて作成しました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月毎に開催しています。自治会の代表者、民生委員、利用者・家族の代表者、それに行政の方が出席しています。会議では事業所の運営内容や行事の説明をし、要望や意見を交わし、地域の理解と支援を得るための貴重な会議となっています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情対応のマニュアルが整備されています。3ヶ月毎に行う運営推進会議では意見交換や要望を話し合っています。年1回の家族会は、意見や要望を汲み取る機会としています。その会には既に退所した利用者の家族も出席し、ターミナルケアの家族の体験談を話し、家族の不安解消の役割を果たしています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設から6年が経過し、自治会の清掃を始め菊花展やお祭りなどの行事にも参加しています。散歩時には地域の方と挨拶を交わし、地域の一人としてごく自然な形で交流しています。また、近隣の保育園の行事に招かれ園児等との交流をもち、中学生が体験授業で来訪するなど、子どもたちとのふれあいを楽しみながら、地域の方々と一緒に暮らしています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は「利用者さん・優先の考え方」を念頭に「美咲の家に来て良かった」と思える事業所を目指しています。利用者が地域の中で共に生活し、共に働き、暮らし続けて、生きていて良かったと思うような事業所づくりに努めています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関フロアーに掲示し、職員に浸透するように日頃の会話やミーティングの中で話し合っています。職員は利用者「やりすぎず」、「暖かく」、「利用者の自信につながるようにやる気を起こし」、「前向きに取り組み」、職員は脇役、縁の下の力持ちになるように日々取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自治会に加入し、近くの保育園の七夕祭りに招待されたり、町内の清掃や下水の掃除への参加、夏祭りのおみこし・山車の見物などして地域との交流を深めています。近所の散歩時に気軽に声を掛け合い、地域の方とふれあいを持ちながら暮らしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義やねらいについて理解し、自己評価の内容について職員に説明しています。評価票を職員に配布して記入後話し合い、その結果を管理者が最終的にまとめて作成しました。前回の外部評価の結果をサービス改善につなげ、日常の介護・介助にも活かすように努めています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会役員、民生委員、利用者・家族の代表、行政の方などが集まり、3ヶ月に1回開催しています。会議では事業所の現状報告と取り組み方などを説明し、意見交換を行い、地域の理解と協力を得る貴重な会議となっています。当地域の6つのグループホーム合同の運営推進会議も年2回開催しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は行政の担当部署へ事業所の運営や現場の実情、業務上の問題点を伝え、入所希望者の情報連絡も密にしています。行政の理解と協力を得ながら、助言や指導を仰ぎサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりなどについては、電話や家族の来訪時に声を掛け合い、生活ぶりや健康状態などを話し合っています。毎月1回家族などにホーム便り「美咲通信」を送付し、事業所の行事内容や日常の暮らしぶりを伝えています。利用者に変化のあったときには、電話で連絡しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記し、契約時に説明しています。家族会を設け、運営推進会議でも要望や意見を聞き、意見交換や家族交流を行っています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	いままでに常勤職員の離職は少なく、ほとんどが開設当初からの職員で定着しています。先輩職員が新しい職員をきちんとフォローし、利用者に安心感を与えるように努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の質の確保、向上に向けた育成が不可欠であると理解し、常に気づき・気配り・目配りの訓練を欠かさぬように日頃より意識づけています。外部研修は、研修内容を事務室に掲示し、常勤・非常勤を問わず参加を勧めています。研修後は報告書を作成し、回覧するなど共有し、スキルアップを図っています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会・グループホーム運営推進会議に参加し、お互いにサービスの質の向上に向けて取り組んでいます。グループホーム協議会では交換研修を行い、運営法人の他のグループホームとは食事会や菊花展鑑賞会の合同行事を行い協力関係を深めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所する際は家族と十分に話し合い、利用者の生活歴や希望を聞き取りますが、本人とも出来るだけ会話を持ち、本人の視点にたって状況把握が出来るように努めています。それらの情報を基に、利用者が事業所での暮らしに徐々に馴染めるように支援しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から料理の仕方としてあんこには塩を入れると甘みが引き出せて美味しくなるとか、畳の縁を踏まないように歩くなどのマナーを教えることがあります。職員は共に生活をして、共に働き、手伝っていただきとても助かったという感謝の気持ちを示し、本人の自信とやる気、生きる意欲に結びつけています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>運営者は職員に「自分だったらどうして欲しいのか」という意識を利用者に置き換えて常に行動するように指導しています。職員は一人ひとりの思いや希望を行動や表情から汲み取り、ケアプランにも反映するように努めています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書は、利用者の日頃の会話やアセスメントを通じて、「本人の一番望むこと」、「本人のしたいこと」そのためにどのようにしたらよいかなど、カンファレンスを行い介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入所当初の1ヶ月～3ヶ月以内で見直し、その後安定すると6ヶ月毎に見直しをしています。利用者の状態が変化したり、本人の要望や日頃の介護・介助にずれが生じた場合には、実情に即し、随時見直しを行っています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成19年4月から医療連携加算の指定を受けています。協力医療機関の内科医が月1回訪問診療し、医療処置を受けることができ、看護師は週1回訪問があり、健康管理や相談を行い安心して生活出来るように柔軟な支援をしています。理美容は月1回利用者の要望に応じて来訪しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は基本的には家族の支援をお願いしています。かかりつけ医がない場合は、事業所の協力医療機関の往診内科医による訪問診療と看護師による健康管理・相談もできる医療体制をとっています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	いままでに、往診内科医・看護師と職員の連携で終末期の看取りを数名行っています。重度化した際の医療対応や看取り、終末期のあり方や考え方については、初期の段階から本人・家族と話し合いを行い安心して終末期を過ごせるような体制づくりに努めています。職員はターミナルケアについて学び、話し合い、方針を共有しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の居室に入室する際は、一人ひとりの状態により声をかけて、覗かない、勝手に立ち入らないなどの対応をしています。トイレ誘導の際も声のトーンを落として他の利用者には聞こえないよう配慮しています。個人情報に関する書類は、施錠できる書庫に保管管理しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は本人の気持ちを尊重し、体調にも配慮し、利用者のペースに合わせて見守り支援しています。台所で昼食の準備をしたり、後片付けをしたり、昼食後散歩に出かけたり、おやつを作る方など、一人ひとりが思い思いに過ごしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は旬の食材をできるだけ採り入れるように努めています。利用者は食事の下ごしらえ、配膳や下膳、後片付けなどを能力に応じて職員と一緒にしています。利用者が下ごしらえしたゴーヤとシソの実のおかずが食卓に添えられ、職員が労いと感謝の言葉を掛け、和やかに一緒に食事を楽しんでいます。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には火、金の週2回と決めています。失禁後のシャワー浴、清拭、冬場に多くなる足湯等状況に応じて臨機応変に対応しています。時間帯も特に決めてなく、利用者の希望や体調を考慮した上で、タイミングに合わせて入浴できるように配慮しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	古い布団やシーツを再利用して座布団を作り、調理をしたり、包丁など刃物研ぎをし、職員は一人ひとりの役割を見つけて支援しています。好きなこと、得意とする事を十分に引き出し、利用者は職員を助けるという意識を持って一人ひとり生き生きと活動しています。ドライブでの外出支援や生け花等の趣味も楽しんでいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は散歩や買い物その日の気分や体調に合わせて日常的に出掛けています。事業所の車を利用して花見や、菊花展の観賞などのドライブでの外出支援もしています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドア、居間の窓は、施錠せず日中開放されています。居室の出入り口は利用者の希望に任せて、カーテンなどで自由な暮らしを支援しています。玄関ドアが常に開放されているので、ご近所の方が来訪しやすくコミュニケーションにも良い効果が出ています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災・避難訓練は年6回実施し、「火事だ」と大きな声を出して訓練を行っています。ご近所には必ず事前に知らせ、その際いざという時の協力も依頼しています。訓練後の反省会を行い、次回に備えています。近くの運営法人の事務所には飲料水や米等の非常食も備蓄しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食事に関する研修会に参加して、カロリー計算や栄養バランスを配慮した食事作りを心掛けています。管理栄養士からチェックやアドバイスを受けたことを参考にしています。利用者の体調、持病の状態に応じ量を加減し、形態を変えています。水分摂取量も把握し、個人別総括表に記録しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が生けられています。庭には季節の草花があり、隣家の庭木も眺められ、四季折々の花が咲き、果実を実らせています。居間や玄関の壁面に位置を示すための紙製の箱を掛け、利用者自身が居場所を確認する工夫をしています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きで、全員布団で寝起きして体力を鍛えています。室内への持ち込み品は利用者や家族に任せられています。家族の写真を飾り、個人ごとに居心地の良い安心して過ごせる居室になっています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 美咲の家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市津久井2-21-22
記入者名 (管理者)	谷花 涼子
記入日	平成 21 年 8 月 22 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で今までの生活の延長として支援している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	話し合う機会を多く持ち、理念の共有 施設の方向性を話し合っている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や通信の配布、近所付き合いを大切にしている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関の開放、散歩やその他で外に出た際にすれ違う人への挨拶をすることで、小さな事でも触れあい、近所の方にお野菜やお花などのお裾分けもあります		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は町内会の役員を務め、町内の清掃なども行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員同士が話し合う機会が持てていないので、月1のミーティングで具体案を出し取り組んでいければ良い。運営推進委員会にて民生委員・家族と共に話し合い、取り組みを行っている。そのことを踏まえ今後ミーティングにてスタッフでの取り組み方を検討していく予定		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的な評価は非常に役に立つ助言です。改善があれば取り組んで行きたい。毎年外部評価後のミーティングにて話し合いを行なっている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティングにて報告を行なってサービス向上していきます	○	運営推進委員会は定期的に行われているが、全職員までの報告には至らず
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	6年目の定期更新を行い、現状報告済み。疑問がある場合はすぐ相談に行くように心がけている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加しましたが、現時点で利用している方が居ない為話し合っておりません。参加を促している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで皆が意見を言える場を作り、虐待のない援助を行なっている。ここにケアにプライドを持って対応している。虐待防止について皆で取り組んでおり、話し合いの場を持っている。現在のところ対象利用者が居ない。ここに意識をしておもうが、職員の入替わりがあるたびに定期的にミーティングでの研修を行ないたい		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長がおこなっている。しっかりと説明を行い、理解、納得していただけるよう努めている		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時意見が言えるよう状況報告を行なっていると共に、苦情の書式連絡先は施設で閲覧している		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	左記の通りできている。適宜ご家族と話し合っている。面接の際には随時行ない、特別変化の見られる際には連絡を入れている		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問い13と同じ。面会の際に会話できる場を作り、ご家族の意見を伺っています		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや普段から話しやすい場、機会を作っている。申し送りにて発言している		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	桜や菊花展、保育園に呼ばれて七夕など外出する際、勤務調整を行い人員確保している。出来る限りにて柔軟な対応、調整に努めている。全スタッフ協力の下、調整している		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	長年のスタッフが多いです。昨年よりスタッフが定着し利用者にも何らかプラスになっていると思う。常に利用者への配慮はしている。スタッフのほとんどが利用者の入居当所から携わっている。今後も職員の体制は大事で職員相互の意思疎通を密にして、利用者さんと接していければいい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人のレベルにあった注意や支援方法を適宜に行なっている。職員1人1人にあった研修参加への促し、その人にあった研修を勧め、行無力のスキルアップを図っている。その人にあった研修参加への促し、その人にあった育成を管理者主体と共に行なっている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	左記の通りできている。適宜ご家族と話し合っている。グループホーム協議会・合同運営推進委員会にて交流を深め話し合っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	いつでも話せる、話しやすい環境作りができるよう心がけている。いつでも何でも話し合える機会を作っている。いつでも話し合える場を作りストレスの軽減に努めている。笑いのある場を作っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理念に合った支援を行なえた時には良い支援が出来ている事を伝えている。各自が向上心を持って働けるよう心がけている。左記通り日頃の職員の勤務状況、能力等についてもケアしている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	口調表情からも判断、1対1での時間を増やし、スタッフは他の利用者さんとのフォローに入るようにし、安心感を与えられるよう支援。左記通り努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	口調表情からも判断し、傾聴把握に努めている。問い23)と同じ。ケアプランにも反映できるよう話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて他のサービスがある事を伝えている。ご家族ご本人の必要な支援を大切にしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設に慣れていただけるよう会話を多くし、状況把握に努めて頂く。その後、徐々に生活に慣れて頂けるよう支援。入所時はご本人の不安をスタッフは理解しているので、フォロー潤滑の役を大切にしている。まずは環境に慣れることを1番と考え、家族と連絡を取りながら工夫し、支援している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	左記通り、同感でそう言った関係を築いて行こうと努めている。日々学び支え合い共に笑い合い生活している。左記通りできている。理念になっています。生活の色々な場で喜怒哀楽を共にしています。ご本人から学ぶ事もたくさんあります。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	問い27)と同じ。共に悩み共に考えている。会話・状況報告。左記通りできている。左記も理念です		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	問い27)と同じ。スタッフは家族として介護のプロとして支援を行なっています。色々な場面から情報を集め良い関係が築けるよう努めている。ご家族ご訪問の際には安心できる状況を作ったり、ご家族には利用者さんの生活状況の事前報告し、密な関係を作っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙のやり取りや、電話が来たり、ご友人の訪問はいつでも良い。手紙 訪問の支援。連絡手段(手紙・電話等)を自由に行っている事で関係が途切れないよう支援できている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々孤立しないよう介添えを行い、支え合えるよう努めている。状況によってはスタッフが会話に入りお互いが関わる様に努めている。1人1人の性格やその時々々の状況に合わせて利用者さんだけの環境を作り努めたり、介添えを行なっている。状況を理解しときにスタッフが潤滑油になっている。利用者さん同士でも気分的などの相性もあり利用者さんの気持ちを抱き対処している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなった方のご家族からの手紙や訪問など大切に付き合いが続いている。大切にしている。退所されてからも遊びに来られる。終了後も付き合いがある(手紙・電話・訪問)		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全体で案があれば検討、試行錯誤しながら取り組んでいる。日々ご本人本位の暮らし方、意向に対して検討している。その人の身になってが理念です		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	談話から暮らしぶり、思い出家族状況を知り、今後の接し方にプラスになるので把握に努めている。出来ている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夜勤のみですが申し送りにて日々の出来事も細部まで受けている。皆好きに過ごされ、スタッフは把握に努めている。日々生活面での言動・表情・行動により現状の把握は常に申し送っている。ご本人と話し、情報を得る機会を多く持ち、またご家族や以前のケアマネさんから情報を得よう努めている		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の意見を尊重した上で作成、それぞれの意見を反映している。他の職員と共に意見を出し合って、介護計画に反映している。ご本人ご家族スタッフの意見アイデアにより作成しているが、ご本人の意見を1番に尊重している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日計画の見直しを行い話し合っている。随時行なっている。ケアプランの作成、状況に応じた見直し、本人からの意見、ご家族の意向、話し合いに応じた作成が行なわれている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でも記録に残し、さらに日々の申し送りにて十分に情報の共有、ケアプランへの反映ができています。毎日の個人記録と同時に、申し送りでの意見交換・対応見直し、月1のミーティングでの意見交換。日々の記録に残し月1回の作成見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	左記の通り出かけている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員との協力・避難訓練時の消防の協力。中学生との教育実習なども行なっています		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在そのような該当者はいないが必要があれば支援を行ないます		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在該当者なし。必要があれば支援を行ないます		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設当時よりのかかりつけ医であり、利用者さんの状況をよく把握され、当施設とは良い関係である。月1の往診や状況に応じてその都度の受診が可能である。信頼のおける在宅医の24時間の往診やご家族の協力の下希望する病院へ行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	在宅医に信頼を置いています。レビー小体病について研修を最近受けたので、今後疑いがある場合にはソレについての相談もしていきたい。支援できている。利用者さんは安心して受診、職員は日頃の利用者さんの状況を詳しく報告し先生の判断しやすいようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回のナース訪問。受診以外にも看護師さんから利用者さんの状況変化伺いの電話がある。週1の看護師さん勤務日には利用者さんの状況を介護側、看護側で話している。職員に看護師がいるため日常の些細な不安も聴ける体制になっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医との連携がとれているので大丈夫と判断している。左記の場合の備えは行なわれている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	共有されている。月1のミーティングにて話し合ったり、今後について意見を出し合っている。常に重度化や終末期については視野に入れてケアにあたっている。また小さな変化があった場合にも迅速に主治医、家族へ連絡して関係者全員で方針を共有している。特に終末期のあり方には全員で勉強し、かかりつけ医と密に連携しながら指導を受けている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルを行なっているスタッフが多いのでチームとしての心構えはできている。申し送りやミーティングにて状況把握、支援も変化させている。できるだけご本人の希望、思いを見極めたうえで、家族やDrと共に支援。変化に備えた準備や対応策は申し送りやミーティングにて密に行なわれている。左記の通り十分な検討準備支援が出来ている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が困惑しないよう十分に話し合いを重ねダメージを防いでいる。かかわる関係者との話し合いは密に行なわれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーは確保されている(状況によりご家族やご本人とも相談の上) 適宜に小声で話したり、個別に伝えたりして他の利用者さんの兼ね合いも考えながら対応している。左記の通り出している	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の希望、思いを聞き自分で決められる状況作りをするが、混乱等見られる際には(分からない等)表情や言葉に合わせた支援を行なう。1人1人に応じた説明、対応を行いました。希望要望を表現しやすい雰囲気・環境作りに努め支援できている。出来る限り自身の考えで動いて頂けるように心がけ、自己決定を大切にしている	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間割を決めずに利用者さんが動く動きに合わせてスタッフは動いている。利用者さんの安全優先のため都合を優先する事もあるが出来る限りは利用者さんの希望やペースを優先するよう心がけている。朝に何するか、したい事の打ち合わせを利用者さんと行い日課にしていきたい。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	左記の通り出している。月1度、理容師の訪問にて行なっている。ご家族の協力があればご本人の行きつけのお店も可能(現在は訪問して下さる理容師さんで皆さん満足されています)	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性が多いので得意分野を把握し、一緒に準備(片付け)が行なえる。また一緒に食事を摂る事を基本としている。準備・食事・片付けおスタッフが常に行なっている。いつでも利用者が携わり、行なっている。食事準備にて時期の野菜を切ったりちぎったり、自分が携わったものが食卓に並び皆で食べると味もまた格別な物に感じるようです	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在希望する利用者さんはいない。オヤツについては共に作ったり、庭の枇杷やミカンをとって職員ともども楽しんでいる。必要な利用者さんに対しては支援できている。利用者さんの体調に合わせて支援されている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツに関しては最終手段と全員が考えており、マズは失敗やオムツにならないよう周囲に配慮しさり気無く声掛けを行うなどして支援をしている。利用者さんに合わせたりハビリパンツやパットの使用。排泄パターンによるタイミングを見たトイレへの誘導。失禁を減らそうと下半身の強化、足の体操、立位歩行などに取り組んでいる		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯にこだわりのある人には前もって希望を伺ったりタイミングを合わせるなど工夫している。週2回の入浴日以外でも状況によって入浴する場合もある(本人の希望や体調によつての支援) 適宜入浴日以外でも入浴やシャワー浴を行なっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ケアプランに取り込み対応すると共にその日の状況に合わせて支援できている。1人1人の生活に合わせた休息の時間や場所を作れるよう支援している。夜間安眠できるよう、他の利用者さんに配慮したり、冬場の温電法や、夏場の換気に注意し、昼夜逆転にならないよう心がけている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きなこと得意とする事を十分に引き出し、活かせるような役割作り、支援を行なっている。本人の力や楽しみに合わせた会話、生活リハビリ。趣味の時間の支援も行なっている。スタッフを助けるという役割にて張り合いを持っていただいたり、他利用者さんとの共に助け合う喜び、楽しみを日々感じていただいていると思います。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて支援できている。理解し買い物当へ出掛け施設の食材や、自身の買い物を行なっている。お金を持つ事について自身で管理できる該当者なし。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、その日の希望や状況に合わせて支援を行なっている。日々の散歩は日課です。散歩は毎日行なわれている。徘徊散歩については人員確保の際に行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	菊花展、花見などは行なっている。1泊の旅行は行なっていない。本人から希望が出た際には実現できるよう対策支援(買い物や季節行事)を行なっている。ミーティングにて外出仕度、行事作り等を話し合い、支援している。1人1人での外出掛けはご家族の協力の下で行なっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話等行なわれている。左記の通り出している。いつでも支援できている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気兼ねなく来れる環境作りと対応+ゆっくり過ごせるよう居室や他利用者さんの配慮等、工夫している。いつでも誰でも来て頂ける様に玄関を開けて待っています。家族や知人、いつでも訪ねられる事ができるような環境作りがされている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや申し送りなどで話し合い、正しく理解されており、実践されている。現在、危険さえなければ自由に動いていただいている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放、居室にはカギはないです。左記の通り出している。鍵のかけないケアに取り組んでいる。日中は常時玄関ドアは開放されている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	左記の通りできている。利用者さんの居場所や行動は常にスタッフが把握し、見守りがされている。常に状況を把握し、スタッフ間での意思の疎通を図り利用者さんの歩行時には転倒防止にて(対象利用者さん)見守りを実践している。いつでも誰が何処にいるのか把握し、また利用者さんにも何処へ行くのか、声をかけてもらえるよう支援している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食があれば注意し見守り。申し送りの強化をしギリギリまで物品を取り除かないようにしている。左記の通り取り組んでいる。刃物や危険要素のある物はスタッフ管理にて使用する際にはいつでもお渡ししています		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修やミーティングだけでなく、日々の申し送りでも情報を共有し事故防止に努めている。インシデント報告書を作り、皆で危険を周知できるようにしている。移動時、服薬時食事、火を使う台所での生活リハビリ等は常に見守りをし、事故防止に努めている。フラツキ等みられる利用者さんは常に状況把握に努めて見守りにて事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティング時に行なわれている。ベテラン職員がペアでいるので、特変時には学びえて欲しい。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年を通して偶数月に防災訓練を行なっている。訓練時の挨拶や日頃の通信などで働きかけていければ良いと思う。年6回の避難訓練や地域との関係を密にすることで協力を得られるよう心がけている。ご近所への協力の事前報告。避難訓練の実地。利用者情報カードの作成。避難訓練を継続して行ない、火災以外の突然時にも利用者さんの安全確保を図って生きたい。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	左記の通りできている。利用者さんの生活状況により、考えられるリスクは常にご家族へ説明されている。ご家族来所時には現状やこれから起こりえそうな事を報告し、見守っている事を説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化でも申し送り、状況に合わせた対応を行っている。日々の密な申し送り、施設長、主治医ご家族への連絡により対応に結び付けている。日々の申し送りやスタッフとの連携で常に理解し、情報を皆で共有している。顔色や表情、行動、血圧体温の変化には把握を努め申し送りで引継ぎを実地している		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	左記の通りできている。服薬の状況について往診時に詳しく報告しDrに細かく聞いている。毎日の申し送りにて各スタッフ把握している。持病を理解しDr薬局さんとも話した申し送りにて情報を伝え、皆で共有している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1人1人に合わせた水分補給+食事の工夫や体操、散歩、生活リハビリでの運動、活動を自然な形で促し実地。食物繊維の多い食材の利用。適度な運動。排便状況を記録に残し、食べ物や温電法にてマッサージなど行なっている。便秘にて服薬されている方が入所したが本人の意向にてDrと相談しつつ服薬を中止し、上記方法等試すと4・5日で排便が出るようになった		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日の口腔ケアの促し(見守り介助)や定期的な入れ歯洗浄にて支援できている。食後のウガイ、ハミガキ、週1の入れ歯洗浄。定期的にケアをし清潔にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量に合わせた盛り付けや状況に合わせた水分摂取。食事量は利用者の状況によって変えている。1人1人の病歴や現病、その日の体調や週間、口腔状況に応じて支援している。水分は随時希望時に飲んでおり、過剰や摂取量の少ない等は把握している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防を第一とし、また感染症に患ってしまった場合には早期対処ができる様研修やミーティング、主治医との連携 取り決めなど実地している。勉強会を開いたり皆周知である。毎日の居室掃除やトイレ廊下掃除を行なう際には消毒液にて掃除を行い感染予防に取り組んでいる。散歩後の手洗いウガイ身体や衣類の清潔保持。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に心がけている。台所の清潔保持。無農薬野菜の利用。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を常に開放していることで家族や近隣の人達が入りやすい環境にしている。また、玄関の周りをいつも綺麗にし印象をよくする事に努めている。常時玄関の扉を開放しているので訪れやすい。気軽に入ってこれると思う。玄関を綺麗にしたり、お花を活けたり理容者さんや職員も気持ちを和ませる雰囲気づくりをしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感あふれていると思います。利用者さんとも生け花をしたり季節感もあると思う。季節の花が常時飾られている。生け花や模様替えにて季節感を取り入れ、どこの部屋にも生活の音が聞こえる安心できる環境づくりに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りを基本としているので、気の合った利用者さん同士が思い思いに過ごせる状態。また、盲目の利用者さん等は表情、言動などを察して1人になれる居場所の工夫や会話の仲介に入ることによって1人1人の状況にあった居場所を作っている。希望に添った場所への促しが出来ている。思い思いに過ごしたい場で日々過ごされている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参して良いことを伝えているが、家具などの持込はない。今後ご家族には伝えていきます。食器など生活用具は使い慣れた物が置かれている。利用者さん自らも過ごしやすく工夫しているのでそれができる環境作りが出来ている。居室環境はある程度ご家族と利用者さんに任せている為、以後後遅良く過ごされていると思う。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節は特に徹底して行っている。空気の入替え、空調使用の場合はこまめに調節。温度調節は衣類でも行なっている。夏場は特に昼夜とわず注意し行なっている。夜間の発汗等に付いても観察し清拭や水分摂取などもこまめに行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険箇所ではスタッフが見守りを徹底している。階段には手すりを付けて残存機能の低下を防ぐよう工夫している。この身体機能や生活導線に合わせた定位置やものの配置。安全面に関しては見守りや職員同士の連携にて確保。環境面では生活の中で自然とリハビリに繋がられるような工夫がされている(あえてバリアフリーにしていない・手すりは最低限)		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人に合わせた対応+日々の密なる申し送りにてその場その場で出来る限り混乱や失敗を防いでいる。わかる力を尊重し、混乱や失敗がある場合には常にご本人の意思を確認しながら防ぐ環境が作られている。混乱があってもスタッフがフォローに入り失敗がないよう支援している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の水遣りや花植え等スタッフと共に行なっている。洗濯物を干したり活動している。夕涼みや草木の手入れ。枇杷やミカン、ミョウガ取りなど楽しんで行なっている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	2	ほぼ全ての利用者の
		4	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	2	毎日ある
		4	数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	2	ほぼ全ての利用者が
		4	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	3	ほぼ全ての利用者が
		3	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	2	ほぼ全ての利用者が
		1	利用者の2/3くらいが
		3	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	5	ほぼ全ての利用者が
		1	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	4	ほぼ全ての利用者が
		2	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	5	ほぼ全ての家族と
		1	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		2	数日に1回程度
		4	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	2	大いに増えている
		3	少しずつ増えている
		1	あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	2	ほぼ全ての職員が
		4	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1	ほぼ全ての利用者が
		5	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	4	ほぼ全ての家族等が
		2	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

普通の住宅街の中に建つ普通の一軒家であえてバリアフリー加工にしないことで在宅生活にとっても近いケアが出来ていると思う。また布団の生活をする事で(見守りの徹)